

国立映画アーカイブ開館記念

映画プロデューサー 黒澤満

Inaugurating NFAJ: Mitsuru Kurosawa: A Film Producer

2019年1月8日(火) - 1月27日(日)

松田優作、館ひろし、柴田恭兵、仲村トオルらを映画スターに育て、
1970年代末から現在まで、
時代に呼応したプログラムピクチャーやTVドラマなど200本以上を
世に送り出し続けた黒澤満プロデューサー。
代表作を厳選して上映し、その功績を顕彰します。

黒澤満プロデューサーは、2018年11月30日に逝去されました。本企画は2017年8月より、黒澤プロデューサーおよび株式会社セントラル・アーツ、東映ビデオ株式会社のご協力の下、進めてまいりました。黒澤プロデューサーのご協力にあらためて深く感謝申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

国立映画アーカイブでは、現代日本映画のプロデューサーを顕彰するシリーズ第2弾として「国立映画アーカイブ開館記念映画プロデューサー 黒澤満」を開催します。

日活で企画製作部長や撮影所長を歴任して多くのロマンポルノ作品を生み出した黒澤は、1977年、東映芸能ビデオに移り、同年に東映が新たに立ち上げた東映セントラルフィルム(のちのセントラル・アーツ)の第1回作品『最も危険な遊戯』(1978年)を皮切りに、次々と魅力的な作品を生み出しました。撮影所を持たず、固定したスタッフもほとんどいなかったにもかかわらず、



撮影：加藤義一

黒澤＝セントラル・アーツが、今日に至るまで約40年にわたり質の高い娯楽作品を多作したことは、撮影所衰退期以降の日本映画にとってきわめて重要なことでした。それは同時に、松田優作をはじめ、館ひろしや柴田恭兵、仲村トオルといった映画スターを育て、多くの新人映画監督のデビューを支え、スタッフたちに活躍の場を提供することで、撮影所の培った映画作りのエッセンスを現在の日本映画に継承し、発展させるという道のりでもありました。

本特集では、『最も危険な遊戯』以降の黒澤の膨大なプロデュース作品から、20本を厳選して上映します。うち9本は今回新たに作製したニュープリント、また『ニューヨークUコップ』も新たに作製したDCPです。さらに会期中には、黒澤と縁の深い映画人によるトークイベントも開催します。

黒澤プロデューサーとその家族たちともいえるスタッフ、キャストが生み出した珠玉の作品群をまとめて上映する貴重な機会となりますので、ぜひ多くの方々にご来場いただきたく、貴媒体でお取り上げいただけますと幸いです。

黒澤満プロフィール(作成協力:日活株式会社)

1933年生まれ。1955年日活入社。新宿日活営業係を経て1958年に梅田日活の支配人に抜擢される。1963年、半年のみ名古屋日活の支配人として異動するが、再び梅田日活の支配人に復帰。1969年、日活関西支社宣伝課長となる。1970年、俳優部次長として製作の現場に呼ばれ、その後映像本部長室長に就く。1971年、日活がロマンポルノ路線へと転換して以降、その企画製作の中核として多くのロマンポルノ作品をプロデュースする。1972年に企画製作部長、1973年に撮影所長に就任。1977年、日活を退社した後、東映芸能ビデオに入社。同年に東映が新たに立ち上げた東映セントラルフィルム(その製作部門が、のちセントラル・アーツに発展)に招聘され、翌年公開の第1回作品『最も危険な遊戯』が話題となる。以後、数多くの映画やTV作品をプロデュースした。株式会社セントラル・アーツ代表取締役社長。2007年、文化庁映画賞(映画功労部門)受賞。2013年、毎日映画コンクール特別賞受賞。

■本企画の見どころ■

黒澤満の仕事は、まだ知られていない

『最も危険な遊戯』(1978年)以降の黒澤プロデュース作品は、劇映画・単発 TV ドラマ・オリジナルビデオ合わせて約 300 本、連続 TV ドラマ 10 シリーズ(トータル 220 話)を数え、多くの映画ファンの胸に刻み込まれています。にもかかわらず、黒澤やセントラル・アーツの仕事を顕彰する試みは——黒澤自身の謙虚で控えめな気質も手伝って——シネマヴェーラ渋谷での東映セントラルフィルムの特集上映(2009年)や、近年刊行された『セントラル・アーツ読本』(洋泉社、2017年)などにとどまっており、その長く膨大な足跡に比して、あまりに多くのことが知られていません。本特集が、黒澤の業績を観直し、その仕事についてさまざまな人が語り起こす新たなきっかけとなることを願ってやみません。

黒澤が育てた新進映画スター

撮影所が、スターやスタッフなど人材を育てる機能を低下させていった時期に、黒澤が多くの人材を育てたことは特筆に値します。とりわけ松田優作、館ひろし、柴田恭兵、仲村トオルは、新たな時代を創った映画スターと言えるでしょう。今上映でも、彼らの代表作をそろえました。

松田優作——最も危険な遊戯／蘇える金狼／ヨコハマ BJ ブルース／死の断崖／それから

館ひろし——真夜中の挑戦 皮ジャン反抗族／またまたあぶない刑事

柴田恭兵——またまたあぶない刑事／べっぴんの町

仲村トオル——ピー・バップ・ハイスクール／ラブ・ストーリーを君に／またまたあぶない刑事／六本木バナナ・ボーイズ／ニューヨーク U コップ／行きずりの街



『最も危険な遊戯』(C) 東映



『べっぴんの町』(C) 東映



『ラブ・ストーリーを君に』(C) 東映・セントラル・アーツ



『真夜中の挑戦 皮ジャン反抗族』(C) 東映

黒澤が支えた若手映画監督

日活で製作現場に携わって以来、何よりも黒澤が大切にしていたのは、映画を作る仲間たちでした。彼らに活躍の場を与え、納得のいく仕事をしてもらうことに、黒澤は全てのエネルギーを注ぎました。今上映では、黒澤のプロデュースによって長篇監督デビューを果たした若手映画監督たちの中から、以下の 5 人のデビュー作を上映します。

一倉治雄——またまたあぶない刑事 **榎戸耕史**——ふ・た・り・ぼ・っ・ち・

成田裕介——六本木バナナ・ボーイズ **原隆仁**——べっぴんの町 **きうちかずひろ**——カルロス

また、ロマンポルノ作品で活劇とコメディのセンスに光るものを感じた那須博之監督を、『ピー・バップ・ハイスクール』(1985年)で一般映画にデビューさせた手腕も光ります。

『ふ・た・り・ぼ・っ・ち・』

(C) 東映・日本テレビ放送網・セントラル・アーツ・キティ・フィルム



TVと「V シネマ」——「映画」を作り続けた黒澤

黒澤は、多くの映画の現場を稼働させつつ、並行して「探偵物語」(1979-80)「プロハンター」(1981)「あぶない刑事」(1986-87)などの TV シリーズや、単発の TV 長篇ドラマ(テレビフィーチャー)もプロデュースしました。これら TV 作品は、黒澤にとっては多くのスタッフやキャストが能力を発揮し、経験を積むことができる貴重な場であり、フィルムで撮影されたという意味で「映画」と全く変わらないものでした。その代表作の一つが、1982年に「火曜サスペンス劇場」で放映された「死の断崖」(松田優作主演、工藤栄一監督)です。今回、ニュープリントで劇場初上映します。また、1980年代にビデオ市場が拡大し、オリジナルビデオ作品(東映のレーベル名は「東映 V シネマ」)の製作が盛んになります。黒澤も多くの「V シネマ」作品をプロデュースしました。今回は、その中でも世評の高い 4 作品(『カルロス』『襲撃 BURNING DOG』『ニューヨーク U コップ』『XX 美しき狩人』)を、全て新しい上映素材(ニュープリント 3 本と DCP1 本)でご覧いただけます。

「映画はメロとアクション」

アクションもののイメージが強い黒澤プロデュース作品ですが、黒澤が繰り返し語ったのは「映画をはメロ(ドラマ)とアクション」。フランク・キャブラ作品など黄金期のハリウッド映画を観て育った黒澤は、王道メロドラマにも強いこだわりを持っていました。『Wの悲劇』『それから』『ラブ・ストーリーを君に』『ふ・た・り・ぼ・っ・ち』『時雨の記』『行きずりの街』といった作品は、プロデューサーとしての黒澤のもう一つの顔を伝えるでしょう。

トークイベント

1月12日(土)には、黒澤の下で脚本家デビューを果たし、数多くの脚本を執筆された丸山昇一氏と、『最も危険な遊戯』公開時からセントラル作品に注目し、批評的伴走を続けてきた山根貞男氏によるトークイベントを実施します。また他にも会期中、黒澤満プロデューサーと縁の深い映画人たちによるトークイベントを予定しています。(詳細は決定次第、当館ホームページにて発表)。

▼上映作品リスト (20 作品) ▼ ★は今回新たに上映素材を作製した作品

- 1.最も危険な遊戯 (1978) | (企画) 黒澤満、伊地智啓 (監) 村川透 (出) 松田優作、田坂圭子
- ★2.真夜中の挑戦 皮ジャン反抗族 (1978) | (企画) 黒澤満、伊藤亮爾 (監) 長谷部安春 (出) 館ひろし、夏樹陽子
- ★3.蘇える金狼 (1979) | (プロデューサー) 黒澤満、紫垣達郎、伊藤亮爾 (監) 村川透 (出) 松田優作、風吹ジュン
- ★4.ヨコハマ BJ ブルース (1981) | (企画) 黒澤満、岡田裕 (監) 工藤栄一 (出) 松田優作、辺見マリ
- ★5.死の断崖 (1982) | (プロデューサー) 山口剛、黒澤満、伊地智啓 (監) 工藤栄一 (出) 松田優作、夏木マリ
- 6.Wの悲劇 (1984) | (プロデューサー) 黒澤満、伊藤亮爾、瀬戸恒雄 (監) 澤井信一郎 (出) 薬師丸ひろ子、世良公則
- 7.それから (1985) | (プロデューサー) 黒澤満、藤峰貞利 (監) 森田芳光 (出) 松田優作、藤谷美和子
- 8.ビー・バップ・ハイスクール (1985) | (プロデューサー) 黒澤満、紫垣達郎 (監) 那須博之 (出) 清水宏次朗、仲村トオル、中山美穂
- 9.ボクの女に手を出すな (1986) | (プロデューサー) 黒澤満、伊藤亮爾、紫垣達郎、遠藤茂行 (監) 中原俊 (出) 小泉今日子、石橋凌
- 10.ラブ・ストーリーを君に (1988) | (企画) 黒澤満、古賀誠一 (監) 澤井信一郎 (出) 後藤久美子、仲村トオル
- 11.またまたあぶない刑事 (1988) | (企画) 岡田晋吉、清水欣也、黒澤満 (監) 一倉治雄 (出) 館ひろし、柴田恭兵
- 12.ふ・た・り・ぼ・っ・ち (1988) | (企画) 岡田晋吉、黒澤満 (監) 榎戸耕史 (出) 近藤敦、古村比呂
- 13.六本木バナナ・ボーイズ (1989) | (企画) 黒澤満、岡田裕介 (監) 成田裕介 (出) 仲村トオル、清水宏次朗
- 14.べっぴんの町 (1989) | (企画) 黒澤満 (監) 原隆仁 (出) 柴田恭兵、田中美佐子
- ★15.カルロス (1991) | (企画) 黒澤満 (監) きうちかずひろ (出) 竹中直人、チャック・ウィルソン
- ★16.襲撃 BURNING DOG (1991) | (企画) 黒澤満 (監) 崔洋一 (出) 又野誠治、熊谷真美
- ★17.ニューヨーク U コップ^{ダブルエックスハンター} (1993) | (コ-エグゼクティブ・プロデューサー) 黒澤満、ジョセフ・ウルフ (監) 村川透 (出) 仲村トオル、ミラ・ソルヴィエノ
- ★18. X X 美しき狩人 (1994) | (企画) 黒澤満、松田仁 (監) 小沼勝 (出) 久野真紀子、ジョニー大倉
- ★19.時雨の記 (1998) | (企画) 黒澤満、村上光一 (監) 澤井信一郎 (出) 吉永小百合、渡哲也
- ★20.行きずりの街 (2010) | (製作) 黒澤満 (監) 阪本順治 (出) 仲村トオル、小西真奈美



『Wの悲劇』



『またまたあぶない刑事』(C) 東映・日本テレビ・セントラル・アーツ・キティ・フィルム



『六本木バナナ・ボーイズ』(C) 東映



『カルロス』(C) 東映ビデオ・きうちかずひろ・講談社

◎トークイベント

日時：2019年1月12日（土）2:05pm-3:00pm（終了時刻は予定）

ゲスト：丸山昇一（脚本家）、山根貞男（映画評論家）

* 入場無料

* 当日1回目の上映をご覧になった方は、そのままトークイベントに参加することができます。トークイベントのみの参加もできます。

◎『それから』バリアフリー上映

1月26日（土）1:30pmの回は、聴覚障害者の方のために字幕投影と、映画の音声を増幅する磁気ループシステム座席をご用意しています。また、視覚障害者向けの音声ガイドはFM配信し、ラジオ貸出もいたします。詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/kurosawa201812/#section1-5>

協力：社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター、Palabra 株式会社



『それから』(C) 東映

開催概要

国立映画アーカイブ開館記念 映画プロデューサー 黒澤満

Inaugurating NFAJ: Mitsuru Kurosawa: A Film Producer

会期：2019年1月8日（火）-1月27日（日）*月曜休館

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU（2階）

主催：国立映画アーカイブ

協力：株式会社セントラル・アーツ、東映ビデオ株式会社

料金：一般 520円 / 高校・大学生・シニア 310円 / 小・中学生 100円 /

障害者（付添者は原則1名まで）、国立映画アーカイブおよび東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

12月25日（火）10時より、チケットぴあにて全上映会の前売券（全席自由席・各100席分）を販売します。[Pコード：559-312]

購入方法や発券手数料等の詳細はホームページかプログラムでご確認ください。

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600（ハローダイヤル）

本特集のHP→<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/kurosawa201812/>



【本特集に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 上映展示室 白鳥・玉田・大澤・岡田

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 pr@nfaj.go.jp